

## 子宮内膜症と生活習慣病

前田 英子／北脇 城

## Summary

近年、子宮内膜症が血管内皮機能障害、動脈硬化、将来の心血管疾患のリスクを増加させることが明らかとなっている。子宮内膜症の慢性炎症部位では、サイトカインやC反応性蛋白(CRP)が生成され活性酸素が増加し酸化ストレスが亢進する。慢性炎症と酸化ストレスは、血管内皮機能を損傷し、動脈硬化の進行と心血管疾患の発症に寄与する。子宮内膜症では、ライフステージ別に外科的治療や内分泌治療を選択する必要がある、これらと心血管リスクの関連についても今後の解明が待たれる。

## Key words

子宮内膜症  
動脈硬化  
炎症  
心血管疾患  
酸化ストレス

## はじめに

生活習慣病とは、食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が深く関与し、発症の原因となる疾患の総称であり、日本人の三大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、さらに脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされている<sup>1)</sup>。近年、子宮内膜症においても、病巣局所の炎症が全身性に影響を及ぼし動脈硬化などの心血管疾患の危険因子となることが注目されている。

本稿では、子宮内膜症女性における心血管疾患リスクについて焦点を絞り、子宮内膜症と動脈硬化症・高血圧症・脂質異常症との関連について説明し、次いで子宮内膜症治療と心血管リスクについて筆者らの研究成果も含め解説する。

子宮内膜症女性における  
心血管リスク

日本の女性看護職員を対象とした大規模前向きコホート研究である Japan Nurses' Health Study によると、子宮内膜症は卵巣がんや子宮内膜がんだけでなく、骨粗鬆症、甲状腺疾患、脂質異常症などの代謝疾患、さらには一過性脳虚血、脳梗塞、狭心症などの心血管疾患リスクとも関連する(表1)<sup>2)</sup>。また、116,300人を対象とした米国の Nurses' Health Study II (NHS II)においても、子宮内膜症を有する女性は、心筋梗塞、狭心症、

Eiko Maeda

京都府立医科大学大学院医学研究科女性生涯医科学病院助教

Jo Kitawaki

京都府立医科大学大学院医学研究科女性生涯医科学教授